

放送日 2010年7月26日～8月6日

「東海地震にそなえて 今週のワンポイント・アドバイス」

いつおこるかわからない「東海地震」。情報から隔絶されやすい外国人の被害を少なくするために、地震の被害から身を守る方法や、事前の準備、地震直後にとるべき行動など、外国人の皆さん一人一人に持ってほしい防災情報をお伝えするコーナーです。

～水を蓄えよう～

2007年に発生した「中越沖地震」で大きな被害を受けた地域では、飲料水は豊富にありましたが、洗濯や入浴、トイレに使う生活用水が足りない状況になりました。

水は飲み水としてだけでなく、調理や洗顔、手洗い、排便時の廃水などあらゆる状況で必要となります。また、けがをしていけば、傷口を清潔に保つためにも使われます。これらを総合すると、一人当たり30リットルの水が必要とされています。しかし、避難時に30リットルの水を抱えていくことはできません。給水車の到着や、ライフラインが復旧するまでの3日間の飲み水だけでも確保できるよう、日頃から家庭で水を保存するよう心がけておきましょう。

家庭でできる水の保存方法として、風呂場やポリタンク、大きめの容器などに、常に水を蓄えておくようにしましょう。これらの水は、災害時には生活用水として様々に利用することができます。ただし、長期的には保存できません。こまめに、水を変えないと、腐ったり、菌が発生したりして、いざというとき、伝染病や腹痛の原因にもなりますので、気をつけましょう。非常時用の飲料水としては、5～6年といった長期で保存がきく水を買っておきましょう。